

二国間交流事業 セミナー報告書

令和6年3月21日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
九州大学大学院人間環境学研究院
[職・氏名]
教授 尾崎 明仁
[課題番号]
JPJSBP 220238802

1. 事業名 相手国: 韓国 (振興会対応機関: NRF) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 持続発展可能な都市・建築デザインのための研究・人材育成セミナー

(英文) Seminar on research and human resource development for sustainable urban and
architectural design

3. 開催期間 2023年8月2日 ~ 2023年8月9日 (8/6 を除く 7 日間)

【延長前】 年 月 日 ~ 年 月 日 (日間)

4. 開催地(都市名)

日本(福岡市)

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Chungbuk National University, Department of Architecture, Assistant Professor, LEE Haksung

6. 委託費総額(返還額を除く) 889,622 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または 日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	40名	0名
相手国側参加者等	4名	0名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

8. セミナーの概要・成果等

(1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。委託費総額の50%に相当する額を超える費目間流用については、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

人間活動の飛躍的な拡大は、資源・エネルギー需要の増大、CO₂濃度の上昇、地球温暖化、大気汚染など、世界規模でネガティブインパクトをもたらしている。特に、急激な成長都市を抱えるアジア諸国では、都市・建築環境の悪化が国境を跨ぐ国際的な問題となっている。そこで、都市・建築分野では、地球環境に配慮した循環型社会や環境負荷の少ない脱炭素社会の構築などの国際的な環境問題を解決するために、グローバルな視点に立脚した高度専門研究教育の推進が喫緊の課題である。一方で、歴史・文化に基づく地域社会固有の問題もあるため、国際基準に準拠したローカルな実践的研究教育が要求される。特に、多様な歴史・文化・伝統が複雑に混在し、都市・建築に係る深刻な環境問題を抱えるアジアにおいて持続的な発展を図るには、都市・建築の全体を周辺領域まで俯瞰して、生活環境の実態や社会的・文化的背景の理解に基づいて個々の技術や政策を総合化し、環境施策を実践する人材育成が必要である。

本セミナー(Sustainable Design Camp 2023)では、九州大学が取り組んでいる環境教育「アジア都市問題を解くハビタット工学教育」を先導モデルとして、国際的な協同研究教育プログラムを構築するとともに、現地で課題を把握・考察し、解決策を導き出し、実践して学ぶ(アクティブラーニング)により、「俯瞰力・実践力・国際力」を修得した人材の養成を目的としている。別添「SDC2023プログラム」に示す通り、本セミナーは7日間のスケジュールで、糸島半島を対象として専門分野(都市計画、建築計画、建築環境、建築構造など)の異なる教員・学生が共同して持続可能な将来都市について計画した。

なお、本セミナーの開催期間について、当初計画から変更し8月2日(水)から8月9日(水)までの内、8月6日(日)を除いた計7日間としたが、問題無い事を相手国側代表者を通じNRFに確認済である。

(2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

本セミナーでは、糸島市の特定の6地域を選定し、その地域の特性を考慮して都市・建築環境に係る問題解決のために将来の都市計画を策定した。教員が主題を設定して関連する知識や理論を講義するとともに、産官の研究者や実務者による特別講義や地域住民との意見交換を行うことで、地域の特性と問題を共有して、課題を正しく理解できるように教育した。学生は、学習した理論と地域の状況を基に自発的にリサーチしながら、グループワークを通じて近未来型の都市計画を構築した。さらに、福岡県および糸島市の行政関係者と共に計画案を評価講評し、未来都市のグランドデザインとして行政にも活用されるようにブラッシュアップした。

(3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

日本と韓国は、政府間でアジア諸国を先導するための国際協同教育(大学の世界展開力強化)に同意しており、本セミナーもその方針に従うものである。都市・建築環境分野はもとより周辺領域まで幅広く俯瞰し、生活の実態や社会・文化などの背景を理解しながら、環境保全に関する広範な技術や方策を適切に選択・組合せ・総合化できる「都市・建築環境問題を解決するための施策・実践に向けて俯瞰力・実践力・国際力を

兼備した高度専門人材」の育成を研究教育の目的として共有し、忠北大学校および釜山大学校と国際協働教育を実施した。

(4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

国際エネルギー機関(IEA)は、2035年までの経済成長の65%はOECD非加盟国のアジアで起こると推定しており、人間活動に起因する資源・エネルギー需要の増大、CO₂濃度の上昇、地球温暖化、大気汚染などの環境問題は、特にアジアにおいて逼迫した状況になると予想している。国連の2030アジェンダはSDGs(持続可能な開発目標)を中核としているが、アジアにおけるSDGsの達成は極めて困難であり、急激な成長都市を抱えるアジア諸国では、都市・建築環境の悪化が国境を跨ぐ国際的な社会問題となっている。本セミナーの目的である国際協働教育による持続循環型環境都市を牽引する人材育成の取組みはSDGsと合致している。自律的かつ持続的に発展可能な都市計画の策定、および計画を先導する高度専門人材の養成は、社会的な地球環境問題の解決に貢献するものである。

(5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

本セミナーは「実際に行う、意見を出す、情報を整理する、応用する、適切に判断する、解決策を提案する」など、体験に基づいて主体的に問題を発見して解決策を見出すアクティブラーニングを行うことにより、都市・建築の全体を周辺領域まで俯瞰でき、その包括的な視点から都市・建築環境に係わる問題を理解し、イノベーションを通じて都市・建築の持続的発展に向けた実践的な課題解決ができる国際的な人材の養成に貢献している。具体的な取組、成果は以下のとおりである。

- 1) 複雑なアジア都市・建築環境問題へ学際的にアプローチするため、関連分野(熱・空気・水環境、エネルギー、脱炭素、社会福祉、経済、廃棄物、防災、国際協力など)に関して、国内外第一線の専門家によるオムニバス型の集中講義を導入して学際的な素養を養成した。
- 2) フィールド調査を通じて、高い専門知識を活かし、現地の社会動態に応じて個別課題に対する実践的な解決方法を立案する素養を養成した。
- 3) 海外大学の教員・学生と課題解決に取り組み、適地展開能力を習得することにより、国際的な場で積極的にコミュニケーションを取りながら協働できる素養を養成した。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本セミナーは、九州大学が拠点となり海外大学との国際協働教育の推進により、地球環境に配慮した循環型社会や環境負荷の少ない脱炭素社会の構築など、国際的な環境問題を解決するために「俯瞰力・実践力・国際力」を備えた都市・建築分野の高度専門人材の育成を目指すもので、本学の「アジア都市問題を解くハビタット工学教育」を基礎としている。その研究教育成果を持続発展可能な都市・建築将来ビジョンとして国際情報発信することで、本学の環境教育を国際的な標準教育モデルとして普及啓発できる。また、本学は質の高い国際的な人材育成の中核拠点として、今以上に海外大学との教育連携体制を構築できる。

(7) その他(上記(2)~(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)

本セミナーの成果を整理して、以下の書籍を発行した。

Sustainable Design Camp 2023, 城島印刷出版

ISBN978-4-86773-020-1

また、上記の書籍を基に整理会を開催し、本セミナーの成果について総括した。

整理会： 持続発展可能な都市・建築デザインのための研究・人材育成セミナーの総括

日 時： 2024年2月19日(月) 13時~17時

場 所： 九州大学 伊都キャンパス イースト1号館 E-B-525